

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成29年度)

2017 年 12 月 28 日

港区長 殿

郵便番号 180-0006

所在地 武蔵野市中町1-34-3-409

評価機関名 株式会社クリップ

認証評価機関番号

機構 02 - 043

電話番号 0422-59-0351

代表者氏名 林 暢介

印

以下のとおり調査を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	村上 龍男	経営	H0405022
	②	安藤 時子	福祉	H1101035
	③	山本 慎介	福祉	H1301059
	④			
福祉サービス種別	保育室			
調査対象事業所名称	港区第二青南保育室			
事業所連絡先	〒	107-0062		
	所在地	港区南青山4-19-5		
	電話番号	03-5770-5366		
事業所代表者氏名	施設長 佐藤 純子			
契約日	2017 年 7 月 12 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2017 年 8 月 6 日			
利用者調査結果報告日	2017 年 10 月 10 日			
自己評価の調査票配付日	2017 年 8 月 6 日			
自己評価結果報告日	2017 年 10 月 10 日			
訪問調査日	2017 年 10 月 13 日			
評価合議日	2017 年 10 月 13 日			
コメント (利用者調査や訪問調査に置いての工夫点)	保護者へアンケート方式による利用者調査を実施しました。合わせて評価者がフロアに入り滞在調査も実施しました。利用者調査終了後、双方の意見に相違がないよう事業所との合議の時間を設定しました。訪問調査では、オリジナルの資料を用い、利用者調査・職員調査の分析結果を説明、意見交換をしました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子ども一人ひとりの心に寄り添い、生きる喜びと生きる力を育む。 2) 楽しくも大変な子育ての保護者の負担を理解し、「ホッ」とできる空間とサービスを提供する。 3) 社員がチームアソシエとして一人ひとりが力を発揮し、いきいきと働き続けられる環境をみんなでつくる。 4) 感謝の気持ちを持って地域の方たちとのつながりを大切にし、共に育ち合う。 5) 保育の専門性を高め、常に子どもの視点に立った自己評価を行い、保育の質の向上に努める。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>社会で活躍する保護者が安心して仕事に就け、子育てを十分な愛情とゆとりを持って子育てができるように、心から保護者を理解し、応援でき、保育士としての専門性を高める向上心のある人材を求めています。また、職員間の協力やコミュニケーション能力のある人材を育成します。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育士は、子どもの目線に立って、子どもの健全な成長を支えると共に、保護者の置かれた状況を深く理解して子育ての応援者として常に傍らに立ち支えていく【プロの子育てサポーター】であるという使命感を持って保育に取り組んで欲しい。また、地域や社会に対しても、子どもとの橋渡し役である認識を持って積極的に取り組んでほしい。</p>

[ver.2]

調査対象

アンケートは、在園児91名中82世帯の保護者に配付、33名から回答を得ました。回答者の利用者属性は、父記入1名・母記入30名・父母一緒2名、平均年齢38歳でした。

調査方法

アンケートは職員より手渡しや連絡帳に挟み配布しました。保護者からは、同封の返信用封筒での直接郵送と園が設置した投函箱の2ルートにより回収しました。

利用者総数	91
利用者家族総数(世帯)	82
共通評価項目による調査対象者数	82
共通評価項目による調査の有効回答者数	33
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	40.2

利用者調査全体のコメント

保護者アンケートは、82名中33名から回答を得ました(有効回収率40%)。総合的な感想について、12名(36%)が“大変満足”、13名(39%)が“満足”、3名(9%)が“どちらともいえない”、4名(12%)が“不満”、(無回答1名)と回答しています。事業所の好感を持った出来事として42件のご意見を頂きました。参考となる意見として「子どものできるようになった事とか変化に細目に気付いてもらえる」や「何かあればすぐ個人面談をしてくれたのはとても安心できる」や「若い先生方とってもよく頑張っていると思います。」等と意見があがりました。こうして欲しい等のご意見として31件のご意見を頂きました。参考となる意見としては「学芸会など工夫がされていますが、先生方に負担のない程度にし、まずは日々の保育を安全にお願いしたいと思います。」や「職員が辞めてしまうので、子どもにとって顔なじみの先生が少ない」等と意見があがりました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	33	0	0	0
33名(100%)が“はい”と回答しています。質問に対して13件のご意見を頂きました。参考となる意見として「トイレや靴下を履くなど、日常生活に関して出来る事が増えています。」や「集団生活の中でお友達との関わり方を覚えている」との意見があがりました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	29	4	0	0
29名(88%)が“はい”、4名(12%)が“どちらともいえない”と回答しています。質問に対して10件のご意見を頂きました。参考となる意見として「毎日どんなことをやったのか、嬉しそうに話をしてくれます。」や「園につくと教室に一直線に向かっていきます。」との意見があがりました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	24	5	1	3
24名(73%)が“はい”、5名(15%)が“どちらともいえない”、1名(3%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して15件のご意見を頂きました。参考となる意見として「家ではなかなか食べてくれない物も、園だと食べてくれることが多いです。」や「独自に手間をかけて下さっている事には、とても愛情を感じます。」との意見があがりました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	28	3	0	2
28名(85%)が“はい”、3名(9%)が“どちらともいえない”と回答しています。質問に対して8件のご意見を頂きました。参考となる意見として「外出やお砂遊びは普段平日に出来ない事なので有り難いです。」や「行事はとても少ないのもう少しあると良いなと思っています。」との意見があがりました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	18	2	0	13
18名(55%)が“はい”、2名(6%)が“どちらともいえない”と回答しています。質問に対して5件のご意見を頂きました。参考となる意見として「いつも電話対応が気持ちよく、申し訳ないと思いながら電話するので有り難いです。」や「あまりそういったケースがなかったです。」との意見があがりました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	17	11	2	3
17名(52%)が“はい”、11名(33%)が“どちらともいえない”、2名(6%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して12件のご意見を頂きました。参考となる意見として「入口のドアが子どもでも開けられてしまうのが不安。」との意見があがりました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	16	8	2	7
16名(48%)が“はい”、8名(24%)が“どちらともいえない”、2名(6%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して11件のご意見を頂きました。参考となる意見として「保護者会の日程など、選べる日が多くあり助かった。」や「保護者参加の行事があまり無い。」との意見があがりました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	30	2	1	0
30名(91%)が“はい”、2名(6%)が“どちらともいえない”、1名(3%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して11件のご意見を頂きました。参考となる意見として「連絡ノートに丁寧にその日の事を書いてくれ、口頭でも伝えてくれる。」や「朝の申し送りや面談があります。」との意見があがりました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	23	7	2	1
23名(70%)が“はい”、7名(21%)が“どちらともいえない”、2名(6%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して9件のご意見を頂きました。参考となる意見として「毎朝、お掃除されているのを拝見し気にかけて下さっているのを感じます。」や「朝は綺麗になっていると思う。迎えに行く時は床が砂で汚れている。」との意見があがりました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	24	6	2	1
24名(73%)が“はい”、6名(18%)が“どちらともいえない”、2名(6%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して9件のご意見を頂きました。参考となる意見として「人によっては少し対応が気になる時はあります。」や「一部の先生で表情がなく、挨拶も事務的な方がいる。」との意見があがりました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	29	1	1	2
29名(88%)が“はい”、1名(3%)が“どちらともいえない”、1名(3%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して6件のご意見を頂きました。参考となる意見として「とても信頼できます。」や「ケガは小さなケガでもきちんと報告してくれる。」との意見があげられました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	12	8	0	13
12名(36%)が“はい”、8名(24%)が“どちらともいえない”と回答しています。質問に対して11件のご意見を頂きました。参考となる意見として「双方への声掛け参考になります。」や「かみつきが多かったのが比較的最近なので、少し不安。基本的に信頼しています。」との意見があげられました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	25	5	1	2
25名(76%)が“はい”、5名(15%)が“どちらともいえない”、1名(3%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して9件のご意見を頂きました。参考となる意見として「〇〇したかったんだね」とまず気持ちを受け止めて、そのうえで興味を他の物に誘導したり、切替させて下します。」との意見があげられました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	24	6	1	2
24名(73%)が“はい”、6名(18%)が“どちらともいえない”、1名(3%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して4件のご意見を頂きました。参考となる意見として「配慮し過ぎて、やや温かみのある交流ができない様に感じます。」との意見があげられました。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	21	10	1	1
21名(64%)が“はい”、10名(30%)が“どちらともいえない”、1名(3%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して7件のご意見を頂きました。参考となる意見として「連絡ノートのやり取りではその時点でのやり取りができているが、その他は特別に説明がなされていない様に思う。」との意見があげられました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	11	5	4	13
11名(33%)が“はい”、5名(15%)が“どちらともいえない”、4名(12%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して12件のご意見を頂きました。参考となる意見として「意見箱を設置する等、意見を聞こうというスタンスは取って下さっています。」との意見があげられました。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	13	4	14	2
13名(39%)が“はい”、4名(12%)が“どちらともいえない”、14名(42%)が“いいえ”と回答しています。質問に対して5件のご意見を頂きました。参考となる意見として「第三者委員に相談できる事を知らなかった。」や「今はまだ相談したい状況になっていないです。」との意見があげられました。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
	9/9	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	
	評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
○非該当		
●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	
○非該当		
●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	
○非該当		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	
○非該当		
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
○非該当		
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
○非該当		

カテゴリー1の講評

会社の「目的」「理念」、保育室の「理念」「方針」の職員への周知が待たれます。

保育室の運営受託会社の「事業目的」、「企業理念」、それらを踏まえた「こころざし」、「約束」が保育室運営の「理念」、「方針」として「入園ガイドブック」、パンフレット、会社案内等に表示されています。理念と方針は、入職時に全職員に配付され、常時携行が義務付けられている「クレドカード」にも明示されていますが、保育の専門家組織として「保育理念」等の周知は図られていますが、会社の存在理由や事業継続の意義を示す「経営理念」等についての理解が十分でなく、その周知徹底を図る事が急がれます。

経営層は明示された権限に沿って組織運営と外部対応に取り組んでいます。

園長以下職員の役割と責任は、等級別職能を表す「階級別人事考課基準」や「職務権限表」明示され、年度初めに園長が作成した「運営計画」、「会議一覧」、「クラス編成」等の諸表が職員に配付され、保育室内の業務分担等に関わる周知が図られています。園長は、隔月開催の区保育室園長会や不定期開催の幼保連携協議会に参加する等の外部対応や社内の「施設長会議」への参加、職員会議の開催等、保育室の業務全般を管理監督して、円滑な業務運営に取り組んでいます。

重要案件は権限に沿って決定され、職員、保護者に周知が図られています。

保育室の組織運営等に関する重要案件は、職務権限表に基づく決裁権によって決定される仕組みが機能しています。組織や制度等に関わる全社的な最重要案件は、隔週開催の会社「執行役員会議」、毎月開催の「施設長会議」等で決定され、エリアを担当するスーパーバイザーや園長から職員に伝達され、保護者や関係者には、保護者会や園だよりを通じて伝えられています。

カテゴリ-2		
2 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(2-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある 評点(●●)		
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している 評点(〇〇●)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー2の講評

倫理意識等に関わる職員意識の向上の策定・実施が求められます。

コンプライアンスの徹底に向けては、児童福祉法、個人情報保護法、保育所保育指針やハラスメント防止等に関わる要綱や指針を定めて取り組んでいます。法が求める公益通報者保護規程の策定や改正社会福祉法に沿った体制整備が求められます。職員には法、規範、倫理を基盤としたクレドを作成して常時携行を義務付け、入職時をはじめ、各種研修や会議の開催時に必要に応じて説明して、意識の向上を図っていますが、職員のアンケート結果からは、職員が納得し、共鳴して業務に取り組むための施策の策定・実施が求められます。

保育室の開放や専門性の地域還元に向けた取り組みが求められます。

区の方針に基づき、保育室の業務運営の透明性の確保に向けて、東京都福祉サービス第三者評価の受審が今年度から導入されましたが、近隣地域への保育室の存在や活動に関わる情報提供、保育室の機能と専門性を活かした随時の庭の開放、妊婦を対象にした育児相談や勉強会の企画開催等といった地域還元策やボランティア受け入れによる職員と子ども達の外部の有為な支援者等との交流策の実施が今後の課題となっています。

ペーパーレス化、IT化が地域ネットワークの共通課題となっています。

地域関係機関のネットワークとして立ち上げられている区立保育園合同園長会、区保育室園長会に園長が参加すると共に、区主催の保健担当者や給食担当者等の専門職ネットワークに資格保有職員や担当職員が参加して、地域関係機関との交流を通じた情報交換や連携に取り組んでいます。地域ネットワークの共通課題としてペーパーレス化、IT化が提起されていて、事務の合理化に向けて取り組んでいます。

カテゴリ-3		
3	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ-1(3-1)		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/8
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(○○)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(○○●)		
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している 評点(○○○)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-3の講評		
<p>職員の苦情対応能力の向上が待たれます。</p> <p>苦情解決については、「入園ガイドブック」に「苦情・相談窓口のご案内」として区の担当部署と会社の担当部局が明示され、入園時には、保護者に面談を通じて周知が図られています。苦情や個別の要望、意見等は意見箱の設置、保護者会や個別面談等を通じ収集され、必要に応じて顧問の専門家の指導を受けて対応しています。保護者及び職員のアンケート結果からは、「苦情対応マニュアル」を活用した研修等の実施に加え、解決経緯や結果を全員で共有して、対応能力の向上に繋げる仕組みの構築が待たれます。</p> <p>利用者・保護者全体の意向の把握とサービス向上への活用が急がれます。</p> <p>利用者の意向把握については、行事アンケートや個別の意見要望の聴取に留まり、利用者全体の意向把握の取り組みは今後待つ状態です。保育室が提供する保育サービスの最終評価者は利用者であることから、その全体意向の把握は利用者本位のサービス提供や会社や保育室の理念実現に不可欠であり、保育事業の担い手としての保育室の経営力と業務品質の向上、経営の方向性展望に向けた、欠かせない取り組みです。満足度調査等に関わる要綱の策定や担当部署としてのサービス改善委員会等の設置といった仕組みの構築が求められます。</p> <p>収集した地域福祉情報や事業動向情報の分析と活用が求められます。</p> <p>地域の福祉や保育ニーズに関わる情報は、園長が参加する区立保育園合同園長会や区保育室園長会、子ども育成協議会等をはじめ、資格保有職員が参加する区主催の保健、給食担当者会や保育室の催しに参加する保護者等から収集し、また、福祉事業全体の動向に関わる情報については、区の担当部署や会社、スーパーバイザーから収集していますが、これらの情報の整理、分析と活用に関わる制度的な取り組みが、今後の課題となっています。</p>		

カテゴリ4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 10/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
評点(○○●)		
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
評点(○○○○)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
評点(○○○○)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

4/4

評価項目1

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-4の講評

保育室の理念の実現に繋がる中長期計画の策定が急がれます。

中長期事業計画は、会社と保育室の理念実現と、事業環境の変化に適合する経営構造の変革への道筋を示す、事業経営に欠かせないものですが、職員のアンケート結果からは事業計画への理解度が低い事が見て取れ、将来に向けての職員の安心感、保護者の信頼感の醸成に繋がる、保育室としての中長期事業計画を、区担当部署や会社関係部署と必要に応じて共同し、策定すると共に、保育室内外への明示が急がれます。今年度からは、改正社会福祉法に沿った内部統制や財務規律に関わる取り組みを考慮する事も重要です。

「運営計画」には課題や問題解決の道程等の明示が求められます。

保育室の年度目標、課題、重点テーマ等を明示した「運営計画」に加え、「保育課程」、「保健計画」、「給食計画」、「指導計画」等の保育室の業務運営に関わる計画と、定例開催日を明示した「会議一覧」、「年間行事予定表」が作成されて職制に応じた業務への取り組みが実施されています。計画は、職員と保護者の意向や保育室の状況を踏まえ、職員の負荷や子どもへの影響等も勘案されて作られています。「運営計画」には、課題解決に向けた道程や計画の進捗管理のための指標と達成した成果を測る基準の明示が求められます。

保育室内の安全確保と情報の共有化に取り組んでいます。

保育室内の安全確保や防災・防犯対策については、毎月定期開催の安全管理委員会が設置され、ヒヤリハット報告の分析、検討や緊急時対応訓練の企画、実施、保育室内設備等の安全点検実施等に取り組む、社内他施設とも情報共有を図り、必要に応じ、職員周知にも努めています。災害発生時の対応については、区作成の「大災害時対応マニュアル」を備え付けると共に、「入園ガイドブック」に「災害時対策について」の項目を設けて、子ども引き渡し、避難場所、連絡方法、災害伝言ダイヤルを説明し、保護者の意識喚起を図っています。

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-5の講評

適正な人員構成による職員満足度の向上策が求められます。

職能等級を明示した「階級別人事考課基準」が策定され、職員の人事管理が今年度から制度化されました。職員募集は会社のホームページを活用し、採用は会社内各事業所からの欠員補充要請等に基づき、会社採用担当者がエリア担当のスーパーバイザーや当該園長と連携して随時行っています。また、多様な雇用形態から成る職員構成についての職員の満足度が低いことから、職員の多様性を活かす効率的な配置や公平感のある業務分担の実施等といった職員の満足度向上に繋がる取り組みが課題となっています。

職能等級に沿った悉皆研修制度が機能しています。

職員の職務に関わる意向や目標は、年度初めに職員自らが将来像等を記入した「自己チェックシート」を基にして、園長との個別面談で把握され、会社運営事業本部が計画、実施している職務等級毎の悉皆研修計画表に沿って、「ヒューマンスキル」、「保育スキル」等のカリキュラムの受講に活かされ、職員毎の能力向上の仕組みが制度的に機能しています。園長には職制に沿った「ヒューマンスキル」や「人事評価」研修の受講が求められ、的確な組織運営に向けた能力向上が図られています。

人材マネジメントの適正な運用が期待されます。

「階級別人事考課基準」と人事考課者である園長を対象にした「人事評価」研修が策定され、人材マネジメント体制が今年度から確立されました。今後の適正且つ効果的な制度運用が課題と言えます。職員の能力やモラル向上に向けては、資格取得奨励制度、永年勤続表彰制度が設けられています。ワークライフバランスに配慮した労務管理や懇親会、全員参加の研修発表会の実施等、良好な職場集団の維持に努めていますが、メンタルヘルスケア、福利厚生制度についての職員満足度が低く、諸制度の効果的な活用についての周知策が待たれます。

カテゴリ-7			
7	情報の保護・共有		
サブカテゴリ-1(7-1)			
情報の保護・共有に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(000)			
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している 評点(0000)			
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-7の講評			
<p>情報の適正な保護・管理に努めています。</p> <p>情報の保護・管理については、会社規程と区の「情報安全対策指針」に基づき、情報の重要性と機密性を踏まえて、電磁的情報に関しては、アクセス権限がパスワードによって管理され、本社担当者が定期的に来室してPCセキュリティをチェックし、紙媒体の情報は施錠管理されています。保管情報は会社規程に沿い、会社と連携して随時更新され、情報の劣化防止が図られています。</p> <p>「個人情報保護法」に沿った取り組みが求められます。</p> <p>個人情報の取り扱いに関しては、「個人情報保護規定」を定めて、職員には入職時のコンプライアンス研修で説明がされ、保護者には入園前面談時に、「規定」の配付と共に、個人情報の取り扱いや利用目的等について説明がされています。個人情報の保護・管理については、利用目的、開示請求の方法、保護方針やプライバシーポリシー等の保育室内掲示及び、会社ホームページへの掲載に加え、保育室業務に関わる外部業者の個人情報保護規程の取り付け等といった法に沿った取り組みの実施が期待されます。</p>			

カテゴリ-8	
8	カテゴリ-1～7に関する活動成果
サブカテゴリ-1(8-1)	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-1で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ-2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ-4:「計画の策定と着実な実行」	<input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
等級別人事考課を基準とした人事管理制度が導入されました。 等級別人事考課基準と人事考課表による人事管理制度を新たに導入し、等級別の到達目標の明確化により、課題と連動した人材育成計画の策定に繋がりました。	
サブカテゴリ-2(8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-5で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-5:「職員と組織の能力向上」	<input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
新人事管理制度に基づく体系的な悉皆研修計画が策定されました。 園長、会社採用担当者、エリア担当スーパーバイザーが連携して、保育室に適した人材確保に努めると共に、導入された新人事管理制度を基盤とした体系的な悉皆研修の実施により、今後の保育室の職場と職員の組織力向上が期待されます。	
サブカテゴリ-3(8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-6で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ-7:「情報の保護・共有」	<input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
「保育の見えるプロジェクト」を発足し、目指す保育を形にしました。 今年度、「保育の見えるプロジェクト」を発足し、アソシエの目指す保育・方向性や取り組みを分かりやすくするために基準書を作成し、全職員へ研修を実施しました。今後、基準書をもとに保育の質の向上が期待されます。	

サブカテゴリ4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

適正な財務状況の維持に努めています。

公設民営施設として、的確な予算の執行管理と適正な財務状況の維持に努めています。事業経営の主体として、管理会計の導入と園の財務諸表の作成と公表が待たれます。

サブカテゴリ5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

保護者会の討議を経て、保育参観の機会を半期毎に設けました。

保育室と保護者との関係を日々の業務を通じて築く中、保護者会の討議を経て保護者の意向把握に努め、参観日を半期毎に設ける事とし、保護者の安心感、満足感の向上に繋がりました。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の実望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>入園希望者の見学には、園長が丁寧に対応しています。</p> <p>見学は、見学会などで一括りにすることなく、園長自らが30分程度の時間をかけて個別に対応しています。見学時間帯については、子どもたちの様子や施設の雰囲気が伝わりやすい室内遊びなどの主活動を見ることができるよう時間帯を勤めています。見学者の都合や希望に合わせて柔軟に対応しています。園見学には「子どもを他人に預ける」ということに大きな不安を抱えながら訪れる方も多くいますので施設のトップが責任を持って対応することで最初の安心を提供しています。</p> <p>利用者の関心を意識したリーフレットを用意しています。</p> <p>見学者などに配布しているカラー刷りのA4三つ折リーフレットには、定員や開園時間などの基本情報は当然のこと、「運営会社の理念・方針」「保育目標」「学年別のデイリー」「年間行事予定」など主要な情報はひと通り記載されています。それに加えて、近年利用者の関心が高まっている「職員体制」「給食・おやつ」「セキュリティ」についての記載もありますし、「園舎見取り図」「所在地図」もわかりやすく掲載されています。「職員体制」に各職種の配置人数まで記載されるようになるとさらに良いでしょう。</p> <p>ウェブサイトの定期的な更新が求められます。</p> <p>運営会社のウェブサイト内に、第二青南保育室のページがあります。ページ内の「園について」をクリックしてみますと、平成27年度開設当初の定員数が掲載されていることが目につきます。さらにそこから「リーフレットを見る」をクリックしますと、第二青南保育室のものではない系列施設のリーフレットが表示されます。更新されていないか誤った情報が掲載されていたりするウェブサイトは、情報提供ツールとして逆効果となりますので、定期的なチェックと更新作業は欠かすことができません。</p>		
サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2の講評

保育に必要な家庭の情報は、過不足なく収集しています。
 入園時の面談では、港区の統一書式である児童票をベースにして、健康面、食事面についても細かく情報を収集することができるような書式を用いています。さらに、家庭の育児方針や施設に期待することなどをフリーに記述することができる記録用紙もあり、面談の担当者の聞き逃しや記載漏れを予防するものとなっています。それらの面談記録は、顔写真付きの送迎者リスト、個人情報についての同意書などと一緒に個別フォルダーにファイリングされています。

入園直後には、環境変化に対応できるように支援しています。
 入園直後の子どもの負担を軽減することができるよう、保育時間は1～2時間の短時間から始めて少しずつ伸ばしていく「慣らし保育」を行っています。その期間は利用開始から2週間を理想としていますが、復職など家庭の事情を踏まえながら家庭と相談して決めるようにしています。家庭によっては「別の保育施設を利用して集団保育には慣れているから」と即時の通常保育を要望されることもあります。安易に同調するようなことなく毅然とした態度で取り組んでいます。

入園時には、サービス内容をまとめて記載した冊子を配布しています。
 入園時には、「入園ガイドブック」を用いて施設の基本的ルールや重要事項などについて説明しています。特に災害時対策については避難場所の地図が載っているほか、緊急時の連絡手段となる「インターネット伝言板」はQRコード付きで案内されています。一方、「子ども子育て支援法」に定められている「休園日」「各職種の職務内容」「文書の保管」「虐待防止」といった重要事項についての記載がありません。認可外保育施設であることから法的な義務はありませんが、認可保育所に順じて整理しておいた方が良いでしょう。

サブカテゴリー3

3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
---	-----------------	-------------------	-------

評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
 保育課程や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(00000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3
 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(00)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4
 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(00)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

情報共有のためのミーティングや会議を行っています。

日々の子どもの様子や家庭状況の変更などについては、園長以下各学年の代表者による「昼ミーティング」の中で毎日報告されています。月1回のクラスミーティングでは当月のクラス活動を振り返り、担当者同士で意見交換をした上で、次月の計画立案へとつなげています。また、調理職員もミーティングの機会を月1回設けて、食事の様子などの情報共有に努めています。ミーティングの内容で全体周知が必要な事項については、リーダー会議や職員会議で報告されています。

目的別の書式を用いて、子どもの成長の様子を記録しています。

保育日誌の内容は当日の保育活動の様子が主となっていますが、0歳児クラスについては個々の姿まできちんと記載されています。また、0歳児クラスから2歳児クラスまでは複写式の「連絡帳」を使用して、日々の子どもの成長を家庭に伝えると同時に、保育記録として活用しています。それらの内容は「発達経過記録」に反映され、記録を読む人が入園から現在までの成長の様子を把握することができるようになっています。

計画の立案や実施は、利用者の意見や要望を踏まえて行っています。

希望に応じて設定する個人面談や1階掲示板前に設置された「ご意見箱」を通して受けた意見や要望は、掲示板を用いて文書で回答するなど、早々にリアクションを見せることを心がけられています。意見や要望の内容によって明確に回答することが難しかったり、採用することができなかったりすることも多くありますが、ひとつひとつ受け止めて、実際に職員配置や年間行事、保護者会などの計画に反映されていることが伺えます。

サブカテゴリー5

5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/7
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(○●)	
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(○○○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについては同意書により確認しています。 個人情報の取得や用途については「入園ガイドブック」に明記されています。また、運営会社による「個人情報の取り扱いに関して」という文書については、入園時に説明した上で、保護者から同意書を得るようにされています。行事の際に撮影した写真など、利用者が他の利用者の個人情報を流出させてしまうことを予防するため、同意書とあわせて誓約の署名を得るようにされています。			
個人情報の管理について、改善策を模索中です。 毎朝登園した際に、子どもの体温を始めとした健康状態や留意事項などを「視診表」に保護者が記入するようになっているのですが、クラス全員の一覧表になっているため、記入するときに他の子どもの情報がすべて目に入ってしまうようです。登降園時間についても同様で、お休みなどの情報が一目瞭然です。感染症などが絡んできますと利用者間に無用なトラブルを招く可能性もあり、園長も改善策を模索しています。			
保育者としてのふさわしい言動を身につけましょう。 一部ではありますが、子どもへの接し方、言葉遣い、表情などについて不適切な職員がいます。保護者調査において「明らかに態度が悪い」「子どもを荷物のように扱う」「挨拶も事務的」「怒鳴っている」「おどしのしつけ」「扱いがぞんざい」「疲れてだるそう」「表情がなく、声掛けもほぼない」といった多くの指摘を受けていますし、訪問調査の際にも垣間見えました。「子どもたちの生命、人格、個人が尊重される」と記された「アソシエのこころざし」が看板倒れにならないよう、職員が主体的に改善に取り組むことを期待します。			

サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

10/11

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(○○●)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(○○○)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(○○○○○)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した保育ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ6の講評

独自の保育手法をまとめた手順書を作成しています。

運営会社が作成した手順書「保育の考え方」には、外遊びや生活習慣の指導から連絡帳や日誌の記述まで、様々な場面における保育手法や留意事項が記載されています。その手順書は、国から示されているガイドラインや、委託者である自治体が作成したマニュアルなどとあわせて、誰でも事務所で閲覧できるようになっています。ただし、職員は入職時に確認するだけで、その後の職務遂行に活用されているとは言い難い状況です。

職員同士の活発で主体的な意見交換が望まれます。

昨年度末から今年度上半期は職員の入れ替えが多く、各クラスのリーダーやチューターが意見を収集したり調整したりすることが難しくなったという側面もありますが、「職員会議」「リーダー会議」「昼ミーティング」など複数の職員が話し合う機会でも報告事項ばかりで終わってしまうことが多いようで、職員同士が議論している形跡が見られません。最終的な決定は上から下への一方通行で良いのですが、決定までの過程においては個々の職員が参画できるような仕組みや機会を作っていくことが望まれます。

資質の向上に反映されるような研修システムが望まれます。

人間力と保育力の向上を目的として、職務階級毎に系列施設合同の社内研修が実施されています。受講者の選定は人事考課と連動して行われていて、それぞれの水準にあわせた研修の受講機会が設けられています。一方、職員調査結果では研修や育成計画の効果に関連する項目の評価は低くなっていて、職員の質の向上における運営会社と職員の意識には乖離が見られます。職員としての義務ではあっても関心を持って主体的に臨むことができるように、研修内容をはじめ、開催時間や頻度、規模などが再考されることを期待します。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
		35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当
評価項目1の講評		
<p>日々の子どもの状況把握に努め個別指導計画に基づいた保育を行っています。</p> <p>0歳児から2歳児、配慮の必要な子どもの保育にあたっては、毎月作成する個別指導計画に沿って、子ども一人ひとりの発達過程を考慮した適切な援助を日々実践するよう努めています。また、送迎時には保護者と子どもの様子を伝え合ったり、連絡ノートや視診表を活用したりして子どもの状況を把握して、保育に反映させています。副園長は、様々な保育場面で子どもの援助を行いながら子どもや保育の現状把握に努め、クラスミーティングに参加して職員指導をしたり相談に乗ったりして適切な援助が行えるようリーダーシップを発揮しています。</p> <p>異年齢保育では子どもの様子に配慮しながら援助することを心がけています。</p> <p>早朝・延長保育の時間帯や幼児クラスでは、異年齢保育を行っています。3歳児から5歳児が一緒に行うリズム遊びや運動遊び、製作遊び等を通して、大きい年齢の子どもがやっていることをやってみようという気持ちが小さい年齢の子どもに芽生え憧れの気持ちを持ち、大きい年齢の子どもは、小さい子どもに優しく思いやりの気持ちを持って関わっています。職員は、子ども同士の関わりを見守りながら、必要な時に仲立ちをしたり子どもの様子に合わせた援助を行ったりして、子どもが楽しんで活動できるよう配慮することを心がけています。</p> <p>職員の共有化を図る取り組みにより、職員の対応力は更に向上するでしょう。</p> <p>クラス担任と共にフリー職員も保育にあたり、子どもの援助を担っています。クラス打ち合わせや指導計画を作成するにあたってはフリー職員は参加せず、大切な内容は口頭で伝えるようにしています。保育にあたる職員が子どもの発達過程や援助方法を意識して、場面に合った適切な援助を行うために、打ち合わせの内容を丁寧に伝えることはもとより、継続した援助が保持できるよう、個別指導・援助の仕方を共有する仕組みの構築が望まれます。</p>		
2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

子どもの様子を家庭と園で伝え合い、安定した生活の保持に努めています。

登園時には、保護者に聞き取りを行ったり視診をしたりして、子どもの健康状態や機嫌などを把握して保育を行っています。降園時には、保護者に園での子どもの様子を伝えて、家庭と園との生活が連続的に安定できるよう配慮しています。また、一日24時間を視野に入れた書式の0歳児から2歳児クラスの連絡ノートは、睡眠や食事や子どもの様子を記入し、一日の生活リズムが把握しやすいものになっています。視診表の活用や口頭での伝え合いは、職員間でも励行して保育に役立たせています。

基本的な生活習慣が身に付くよう、専門性を活かした援助を行っています。

食事や衣類の着脱、排泄等の基本的な生活習慣が身に付くよう、子ども一人ひとりの状況に合わせて援助を行うよう努めています。手洗いやうがいの場面では、職員と一緒にいながら手本を示したり言葉がけをしたりして、子ども自らがやってみようとする気持ちが芽生えるよう援助の仕方に配慮しています。また、何のために手洗いをするのか等、話をしたり紙芝居や絵本の読み聞かせを行ったりして、看護師による指導を取り入れながら子どもに伝えています。歯磨き指導は、嘱託医の歯科衛生士が行う等、専門性を活かしながら実践しています。

「手順書」の活用により全職員の対応力向上を目指しましょう。

生活や遊びの様々な場面においての手順や指導方法等、基本的な指導のポイントが記載されている「手順書」を作成しています。新人オリエンテーションの際には組織として話をしており、事務室に保管されていますが、フリー職員や非常勤職員を含めた全職員が参照して実践に繋げているには至っていない状況が見受けられます。いつでも参照できることにはなっていますが、職員の身近にあってこそ、確認したい時にすぐに活用でき、日々の実践に繋がっていくものと思われます。全職員に浸透させる手立ての見直しが待たれます。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3の講評

子どもが集団活動を楽しめるよう、個々の心情を把握して援助しています。

子どもが友達や保育者と関わりながら活動を楽しめるよう、一人ひとりの様子に配慮して、子どもの気持ちを尊重する対応を心がけています。子どもの表情や体の向きなどを細やかに見ながら子ども自身がやってみようという意欲を引き出すような言葉がけをして、保育者も一緒にいながら楽しさを伝えるよう配慮しています。また、継続的に活動に取り組むことで、子どもの次への意欲に繋がるように工夫しています。園長や副園長は、遊びの提供について職員からの相談に乗りながら、子どもの活動や職員を支えています。

子どもの表現力を養い、豊かな感性を育む活動に取り組んでいます。

幼児クラスでは、「うたとリズム」を週一回取り組んでいます。保育者のピアノに合わせて歌を歌う子どもの姿は快活で、楽しんでいる様子が見て取れました。リズム遊びの取り組みにおいては、職員自身の技法習得に向け、リズム講師による職員研修を年7回受講して研鑽を積んでいるところです。また、「アート」アクティビティでは、法人内の表現活動の講師が、3歳児から5歳児の活動に携わっています。野菜を使ったスタンプ遊びを行ったり「海」をテーマにして表現したりして、様々な素材に触れながら、子どもが自分なりに表現する場を提供しています。

子どもの自主性を育む環境設定を目指しましょう。

子どもの主体性を育むために、子どもの視点に立った保育環境の整備を目指していますが、子どもの興味・関心、発達過程に見合った玩具の種類、数は、十分とはいえません。牛乳パックや布で手作りしたままごと用の玩具等は工夫されていますが、乳児期の子どもに経験させたい、指先を使いながらつまんだり、引っ張ったり、めくったり、物の出し入れをして楽しめる玩具等の整備が待たれます。子どもが自分の好きな遊びを選んで遊べる環境設定こそ、子どもの好奇心や遊ぶことへの意欲を育み、自主性を育むことに繋がっていくでしょう。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

子どもの生活や遊びを活気づける行事を実施しています。

毎月、子どもと職員が集い誕生会を開催しています。0歳児・1歳児はクラス別に、その子の誕生日に行っています。2歳児以上は、一堂に会して成長を喜び合い、職員のパネルシアターなどを見て、楽しいひと時を過ごしています。職員が演じる劇遊び等に触れて、子どもは自分たちもやってみたいという興味を持ち、意欲が芽生えるきっかけにもなっています。スポーツフェスタや作品展等の子どもの成長発達を見せ合う行事や、お楽しみ会、新年子ども会等季節の行事や親子で参加する農園収穫体験の企画を行い、子どもの体験の幅を広げています。

行事開催にあたり、保護者への協力が得られるよう配慮しています。

行事の日程や行事に必要な準備等のお知らせは、事前に保護者に提示するよう心がけています。また、行事実施後は、壁新聞を作成して保護者に子どもの様子を伝える実践は、保育を伝える良い機会にもなっています。保護者においては、行事に参加しながら子どもの成長を感じ、一緒に楽しんだり友達や他の保護者と触れ合ったりする行事の企画を要望する意見もありました。園として真摯に受け止め、今年度は保育参加を実施することとなりました。スポーツフェスタ(運動会)開催後はアンケートを実施し、次年度の取り組みに繋げるよう配慮しています。

行事を通して、子どもの主体性や協同性を育みましょう。

幼児期の子どもは、イメージが豊かになり、自分なりの思いや意見を言葉で表現することが出来るようになってきます。子ども自身が自分たちで考えて、友達と話し合いながら行事を進める機会を提供することにより、主体性や協調性が育まれていくことでしょう。行事に必要な物も、子ども自身の手が加わり友達や保育者と一緒に作成することにより、創造性が培われ、様々な学びが芽生えると思われます。行事の実施までの過程において、子どもに経験させたいことや育みたいことを意識した取り組みが望まれます。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

乳幼児の合同保育時においても子どもが楽しく過ごせるよう配慮しています。

延長保育の時間帯で遊ぶ玩具を準備し、子どもが新鮮な気持ちで興味を示して遊んで過ごせるよう工夫しています。また、ゆったりした雰囲気づくりに努め、心身ともにおだやかに過ごせるよう、乳児には保育者の関わりを密にしています。幼児には折り紙等落ち着いて遊べる教材を提供しています。お迎えの時間帯によって、補食・夕食の提供を行い、子どもが美味しく食べられるよう毎日のメニューに配慮しています。

保育者間の連携を円滑にして保育にあたるよう努めています。

保育形態が変わる際には、子どもが安定して過ごせる配慮を行うため、担当職員間の引継ぎを丁寧に行うよう努めています。視診表は、登園時から活用しており、延長保育時も視診表を活用して、子どもの様子に合わせて保育にあたっています。心身の様子や、子どもの好きな玩具、遊び方等についても、具体的に申し送りを行っています。引継ぎや保護者への伝達については、滞りなく実践することを目指しています。伝え忘れを防ぐためには、視診表の書式の見直しも効果があると思われます。

環境構成の見直しにより、子どもの生活や遊びは更に充実するでしょう。

年齢の幅のある子どもたちにとって、温かくくつろぎの場となっているか、興味・関心を持って遊べる場となっているかと、保育室の環境設定を充実させるための検討を、定期的に行うことをお勧めします。その実践により、子どもの延長保育室で過ごすことへの期待感や満足感、更に深まっていくことでしょう。全職員が子どもにとっての最善策を常に意識して保育にあたるために、人的環境となる職員間の学びの場も不可欠です。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当

評価項目6の講評

給食計画に基づき、美味しい給食を提供しています。

区の統一献立に沿って、園内の調理室で調理を行い、彩りよく子どもの食欲をそそる、栄養価の高い給食を提供しています。給食を通して、「みんなで食べると美味しい」「食べると元気に大きくなる」「苦手な物でも少し食べてみよう」等、食事の大切さを子どもに伝えて、食べることを楽しむことができるよう援助しています。給食のサンプルを廊下に展示しているので、お迎えの際に保護者は確認することができます。0歳児室では、中期食や後期食の展示も行っています。手作りおやつや離乳食の試食会は保護者に好評でした。

食文化の違いや子どもの体調に配慮しながら食事を提供しています。

日本食に慣れない外国籍の子どもには、保護者と連携をとりながら、少しずつ慣れていくように援助しています。食べることができた時に一緒に喜んでくれる友達の存在も、大きな自信に繋がり、食事を通して、子ども同士の社会性を育てています。食物アレルギーの対応においては、保護者と面談をしながら症状等を詳しく確認し、医師の診断・指示書に基づいてアレルギー食材を除去して提供しています。配膳時に間違いのないように、個別のトレーに名札を付けています。アレルギーチェック表を用いて調理員・担任・介助する職員間で復唱して確認しています。

子どもと調理職員の関わりも、食育に繋がっていくでしょう。

4歳児、5歳児のクッキングでは、調理職員が指導をして、クッキー作りを行っています。行事食や誕生会メニューにおける盛り付け等の工夫は、子どもにも保護者にも好評を得ています。給食会議では、保育者と調理職員が献立内容や配膳時間、食具等について話し合いを持ち、職員間の連携を図っていますが、随時、調理職員が実際に子どもが食している場面に立会い、各年齢の子どもの喫食状況の実態を把握することにより、給食提供の質の改善は更に充実するでしょう。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

保護者との連携を図りながら子どもの健康維持に努めています。

登園時、保護者は子どもの熱を検温後視診表に記入して、子どもを職員に引き渡しています。職員は、子どもの様子を保護者から聞き取り、子どもの健康状態を把握しながら受け入れ、その日の生活が健康的に安全に送れるよう配慮しています。保育中に体調の変化が見られた時は、保護者への連絡を行い、早期対応に努めています。また、室温や換気等にも留意しながら感染予防に心がけ、感染症が発生した際には、ほけんだよりや掲示板を活用して保護者に情報提供をして、注意喚起を行っています。

安全委員会の活躍は安全保育の保持に繋がるでしょう。

子どもの安全を確保するために安全委員会を設置しました。施設内外の安全点検や各種訓練を実施しています。また、折に触れて、室内では走らない、物は投げない、ルールを守る等子どもに具体的に話をして事故防止を図っています。日頃、全身を動かして遊ぶ中で柔軟な体作りをしていくことも安全保育には不可欠です。安全委員会の中で柔軟な体作りの取り組み等も検討し、実践に繋げてはいかげでしょう。子どもや職員の健康管理と子どもに対する健康教育、乳児保育の実践と助言等を担う看護師の専門性を生かした取り組みを期待します。

子どもの安全を保持するために、ヒヤリハットの活動を見直しましょう。

事故には至らないものの一步手前の事例を発見し事故を未然に防ぐため、ヒヤリハットの収集に取り組んでいますが、その活動は活発とはいえません。ヒヤリハットを報告し、対策を検討する中で危険防止についての認識は深まり、安全保育に繋がっていきます。事故を未然に防ぎながら安全保育を実践するために、ヒヤリハットの意義を職員に周知し、事例を収集・分析して、改善策を全職員で共有する仕組みを確立していく報告活動を活発化していくことが望まれます。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目8の講評

パートナーシップを発揮し、保護者との信頼関係の構築を目指しています。

「子どもを真中に保護者とパートナー的関係を築く」ことを園の課題として、日々連絡ノートを通じて子どもの様子を保護者と伝え合ったり、送迎時には保護者とのコミュニケーションを積極的に行ったりして、保護者と何でも語り合える関係づくりを目指しています。子育てに関する育児相談は随時受け入れ、保護者の思いを受け止めて子どもの姿を共有しながら園長や副園長が対応しています。保護者アンケートには「連絡ノートに子どもの様子を書いてくれるので安心」「育児の相談にのってくれるので助かる」等の意見が多数寄せられていました。

保育活動を伝える手段を工夫し、保護者の理解を得るよう努めています。

毎月、「えんだより」「クラスだより」「ほけんだより」「栄養だより」を発行しています。保育活動や子育ての参考になるような情報を掲載し、保育士や看護師、栄養士の専門性を生かしながら提供するよう努めています。また、掲示板や壁新聞を活用して保育の取り組みや子どもの様子を伝えています。年3回の保護者会、年2回の個人面談を開催して、保育活動について説明を行ったり、保護者からの意見や要望に応えたりして、保護者の理解を得て、園の運営が保護者の子育て支援に繋がることを目指しています。

保育参加・参観は、園の取り組みや子どもの理解に有効でしょう。

今年度2月に、乳児クラスは保育参観、幼児クラスは保育参加を行います。写真や文章で保育活動や子どもの様子を保護者にお知らせしていましたが、実際に保育の中に入ったり参観したりすることで、子どもへの対応の仕方や生活の仕方等に、より身近に触れることができるので、保護者は家庭での子育ての参考にして、子育てに自信を持つ機会にもなることでしょう。また、子どもが生き生きと活動している様子に安心感を持ち、園への信頼も深まっていくと思われれます。保護者の不安は年度初めにもあることから、今後の企画を一考されると良いでしょう。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>合同行事を行い、在園児以外の子どもと交流しています。</p> <p>近隣の幼稚園、保育園、小学校にスポーツフェスタ(運動会)の案内状を配布したり、同法人の他の保育室と行事を合同で行ったりして、在園児以外の子どもと交流する取り組みを行っています。また、散歩の途中では近隣の人への挨拶を職員と一緒に交わしています。入園希望の見学者にはリーフレットを渡しながら園内を案内し、園生活を伝えています。地域の子育て家庭への支援の具体的な取り組みや地域資源を活用した取り組みの実施には至っていません。</p> <p>地域資源の活用による様々な体験は、豊かな生活を助長することでしょう。</p> <p>園として、地域との関わりを広げ子どもの生活の幅を広げるために、地域と連携し交流していくことは大切だと考えていますが、現在は園運営を優先している段階です。地域の状況を今一度探索し、地域の実情を踏まえた上で、保育に活用していくことを期待します。まずは、地域の図書館や遊び場の活用を検討してみたいかがでしょう。地域資源の活用により、子どもの生活や遊びが広がり、職員にとっても、学びの機会となっていくことでしょう。</p>		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者との共有を図る取り組みは子どもの安定した生活を支えています。
	内容	日頃から保護者との連携を密にして子どもの様子や成長の姿を伝え合う実践により、健やかな子どもの成長を支え、保護者が安心して子育てができるよう支援しています。また、送迎時の対話、連絡ノート、個人面談等を通して子どもの様子を把握し、生活リズムが整うよう配慮しながら保育を行っています。乳児クラスの連絡ノートは、一日24時間を視野に入れた様式とし、睡眠や食事時間等を園と家庭で記入し、お互いに把握ができるよう工夫しています。子どもの成長を保護者と共有する実践に、保護者アンケートには好意的な意見が寄せられます。
2	タイトル	利用者の意向を把握して、保育運営の改善へと繋げています。
	内容	昨年度末から今年度上半期にかけて離職者が続出したことで与えてしまった大きな不安を少しずつでも解消することができるように、保護者との信頼関係に構築に趣をおき、相談や意見があった場合には真摯に受け止めて、柔軟に対応することを心がけられています。今年度中でも「用務員の配置」「保護者会の開催」「お楽しみ会の開催」「保育参観・参加の実施」など具体的な取り組みが見られたり予定されたりしていますし、今回の保護者調査結果についてもすぐに分析と改善策の検討を開始されています。
3	タイトル	新人事管理制度に基づく体系的な悉皆研修が機能しています。
	内容	階級別人事考課基準と人事考課表による新人事管理制度を基盤に、階級別の悉皆研修が体系化され、園長との個別面談で把握された希望や能力に応じたカリキュラムの受講が制度化されて、職員毎の能力向上の仕組みが機能しています。新人事管理制度とそれに沿った人材マネジメントの適正且つ効果的な運用が期待されます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育室の理念の実現に繋がる中長期事業計画の策定が求められます。
	内容	中長期事業計画は、会社と保育室の理念実現と事業環境変化に適合する経営構造の改革への道筋を示す、事業経営に欠かせないものですが、職員のアンケート結果からは事業計画への理解度が低く、次代を担う人材の育成と的確な財務規律に基づく健全な財務状況をも展望した中長期の事業計画の策定と保育室内外への明示が求められます。
2	タイトル	書類書式の見直しと、ICTの活用を検討することが望まれます。
	内容	書式が自治体と運営会社とで異なるため二度手間になってしまう事故報告書、子どもの健康状態が他児の保護者にもわかってしまうような視診表、当日の天候や出席状況などにより変更するため訂正だらけになる保育日誌の週案欄など、書類書式について無用な問題が多々見受けられます。子どもの記録についても保育日誌、連絡帳、個別記録とバラバラで、必要な情報を探すことに手間がかかってしまいます。書類整理や手書き文化にICTが導入されれば、人の目や手でなければできないことに力を注ぐことができるようになるでしょう。
3	タイトル	地域資源の活用により、子どもの体験の幅を広げましょう。
	内容	地域における活動の課題として「地域の子ども関連施設等と交流する」ことを掲げ、近隣の幼稚園・保育室・小学校との交流を図っています。更に、関係機関と連携しながら子どもの生活に広がりを持たせる取り組みを検討してみたいかがでしょう。例えば、警察署や消防署と協力して交通安全や防犯等の訓練、避難訓練を行い、子ども自身が危険から身を守る方法を学ぶ機会を持ったり、世代間交流で高齢者との関わりを持ったり、図書館等の活用等、地域の実情を把握して実践されることを期待します。